

# 夜間・休日の救急医療はルールを守って受診を

健康推進課保健・地域医療担当 ☎5311

九月九日は「救急の日」です。この日は、救急医療および救急業務に対して国民の理解と認識を深めるために定められています。

近年、受診者の増加により医療スタッフの負担が増し、その体制維持が困難な状況になってきています。

もう一度、救急医療と受診マナーについて皆さんで考えてください。

## ■大崎市の救急医療体制

「救急医療」とは、「緊急の処置または治療が必要ながや病氣などに対して行われる医療」のことで、一次（初期）救急、二次救急、三次救急という三段階で対応します。一次救急は、外来で対応可能な救急患者を診察治療するものです。二次救急は、入院治療を必要とする重症救急患者が対象です。三次救急は、救命救急センターが担い、二次救急では対応できない複数診療科にわたる特に高度な処置が

必要、または重篤な患者へ対応しています。

市では、市民の急な病氣やけがに備えて、大崎市医師会の協力により、三百六十五日ほぼ二十四時間の救急医療体制を整えています。

医療機関の機能分担と連携協調により、市民に必要な受診機会を提供し、健康を守り、安心を与えているこの体制は、ほかの自治体には見られないきめ細かな体制として高い評価を受けています。

## ■救急医療の現状

患者の中には「ずいぶん前からおなかが痛い」「普段病院でもらっている薬が欲しい」「平日は会社・学校に行っていないけど中には病院に行けない」「待ち時間が少なそうだからなど自分の都合だけで、休日や夜間の救急医療にはそぐわない軽い症状のケースで来院する人もいます。いわゆる「救急医療のコンビニ化」と呼ばれる状況が全国的に問

題になっています。

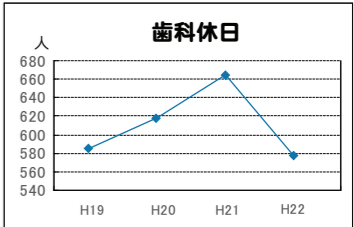
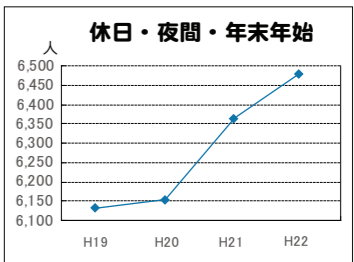
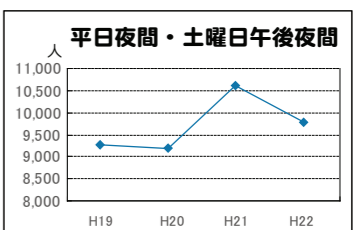
救急医療は、緊急性の高い重症の患者を受け入れるためのもので、安易な受診は、一刻を争う患者の診療を奪うことにもなりかねません。

**■普段の心がけと行動が大切**  
急な病氣やけがをしたとき慌てないために、普段から次のようなことを心がけてください。

- 1 身近に相談できるかかりつけ医を持ちましょう。
- 2 日中から体調が悪いときにはできるだけ早めに受診しましょう。
- 3 いざというときのために正しい応急手当の知識を身につけましょう。
- 4 常備薬を備えておきましょう。
- 5 日ごろから自分の健康は自分で、家族の健康は家庭で守りましょう。

## ■応急手当の重要性

救急現場に居合わせたら、



速やかに一一九番通報し、適切な応急手当を実施することが大切です。救急隊が現場に到着するまでの間に、居合わせた人が人口呼吸や心臓マッサージに加え、AED（自動体外式除細動器）を使用することで、傷病者の救命効果が一層向上します。

## ■救急医療の受診者数

平成二十二年度の受診者数は、平日夜間・土曜日午後夜間が九千八百七十五人で新型コロナウイルスが流行した一昨年に比べ七百七十一人減っています。依然として高い数字です。

休日昼間・夜間・年末年始が六千四百八十五人（前年比百二十二人増）となっています。

さらに、平日夜間・土曜日午後夜間のうち午後十時以降

の深夜帯に受診する人の割合が二十五%を超える状態が続いており、翌日の診療を控えた医療スタッフに過酷な労働を強いています。

## ■子どもの救急

県子ども夜間安心コール  
電話番号  
〇二二・二二二・九三九〇  
(プッシュ回線、携帯電話からは#8000)

利用日時

毎日午後七時～十一時

子どもの救急ホームページ  
<http://kodomo-qc.jp/>

内容

生後一カ月から六歳までの子どもの具合が悪くなったときに、病院で受診するかどうかの目安を提供

◎県医療機能情報提供システム  
<http://medinf.mnic.or.jp/>

## ■行政改革

# 第二次集中改革プランの取り組みについて

行政改革推進課 ☎22285

大崎市では、「財政の健全化」と「市民満足度の向上」を目的に、行政改革大綱に基づいた行政改革に取り組んでいます。

現在は平成二十二年度から平成二十四年度までの三年間

を対象期間とした「第二次集中改革プラン」に沿った各種取り組みを行っています。

平成二十二年度の主な取り組みは次のとおりですが、対象となる二十二項目すべてを併せた目標額約九億一千万円

に対して、約十三億四千万円の財政効果をあげることができました。

震災復興に全力で取り組むためにも、さらなる財政健全化を目指し、着実に行政改革の歩みを進めていきます。

第2次集中改革プラン 主な取り組み

推進項目	内容	平成22年度目標額(千円)	平成22年度効果額(千円)
定員適正化計画の推進	職員数を53人削減して人件費を削減	410,601	420,926
使用料などの収入確保	大崎市私債権管理条例の制定と未納者への取り組み強化	6,778	13,991
遊休資産の売却	市有地3件を売却	8,000	25,262
病院事業の経営健全化	腫瘍内科の設置や放射線治療専門医師の配置による経営改善や平成22年度診療報酬改定などによる収益の増加	400,000	848,000
その他	大崎版市民参加型事業仕分けの実施や市税滞納整理の強化など	80,535	28,700
計		905,914	1,336,879



昨年実施された事業仕分け

## 市長コラム 天・地・人

### ありがとう古工野球部



大崎市にとってこの夏一番の話題は古川工業高校野球部の活躍でしょう。甲子園では惜しくも一回戦で佐賀県代表唐津商業高校に敗れましたが、県大会では、強豪東北高校を下し、決勝戦で、甲子園出場経験のある利府高校との接戦を制し、甲子園初出場を果たしてくれました。この素晴らしい快挙は震災に打ちひしがれていた市民に勇気と希望を与えてくれました。まさに甲子園効果でしょう！

甲子園大会は九十三回の歴史を数える高校球児の夢の大会であり、日本中を熱くしてくれる夏の国民的イベントでもあります。今年のテーマは「復興と絆」。

私も甲子園に応援に行ってきました。

「甲子園には魔物が棲んでいる」といわれますが、球場に足を踏み入れた瞬間、その事実を実感しました。球場がとつともなく広

い、観客が多い、歓声がすごい、半端でない暑さ、アルプススタンドに陣取った大応援団も魔物にのまれてしまいました。

選手も魔物にのみ込まれたかのように、ガチガチに緊張、信じられないミスの連発、序盤九失点、一方的な試合になると不安がよぎりましたが、さすが古工ナイン、中盤から全員野球の持ち味を発揮し、今大会最剛腕投手といわれた相手投手から四点をもぎ取る好試合を展開しました。

勝負には敗れましたが、選手が一丸となり、あきらめず、必死に食らいつき、チャンスを着実に物にする古工ナインの姿は私たちに感動と感激を与えてくれました。その姿は震災の復旧・復興への起爆剤にもなるものと確信しております。

古工野球部の皆さんお疲れさまでした。そしてありがとう！

大崎市長 伊藤康志